

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600027		
法人名	株式会社 ナックス		
事業所名	グループホーム ぬくもりの家 揖斐		
所在地	揖斐郡揖斐川町島291-1		
自己評価作成日	令和3年7月12日	評価結果市町村受理日	令和3年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2192600027-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2192600027-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年8月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は緑に囲まれ、居室から眺めて四季を感じられるよう庭作りに力を入れています。色彩ある草花によって心が癒されるよう、施設内のいたるところに、生花を飾っています。100歳になる利用者様がお二人いらつしやり、長い時間を一緒に過ごしお祝いできたことは職員の誇りになっています。また、看取りを希望される方が増える中、医療機関と連携し精一杯、最期まで支援しています。大切な人生を生きる場所として選択して頂けたこと感謝して、希望の暮らしに近づけるように、職員一同、一丸となって支援させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度は、新型コロナ感染症対策の為、ZOOMによるリモート調査での実施となった。事業所は、“その人の希望を重視し、その人らしく生きることを支えたい”という思いを大切に、良質な支援提供に努めている。管理者と職員の思いは、利用者や家族、地域の人にも伝わり、コロナ禍で制限が多い状況にあっても、協力を得られており、利用者の穏やかな生活が継続できている。管理者と職員の関係も良好で、働きやすい事業所となっている。居室のベランダ、テーブルと椅子が設置された広い庭やデッキ等を活用し、利用者が施設内に閉じこもること無く、季節を感じながら暮らせるよう支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○(コロナ)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○(コロナ)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議や研修の中で、運営理念に沿ったケアができていないか話し合っている。管理職は全員が利用者様の心に寄り添ったケアができていないか、個別ケアの実践につなげている。	理念は事業所内に掲示して名札の裏側にも記し、職員が常に理念を意識するようにしている。現在、職員会議はコロナ感染症対策の為、2つのグループに分けて実施している。また、連絡帳を活用し、書面で伝達、情報共有と意見交換を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の福祉フェアや公民館まつりで、利用者様の作品展示をしている。近所の方が畑で作った野菜を持って来てくださる。退居された利用者様ご家族よりコロナで大変だからと、マスクやアルコールの寄付をして頂くなど良好な関係が続いている。	コロナ禍の今、地域行事の多くが中止されている。開催された行事も、例年同様には参加できないが、利用者作品の展示による参加や情報の共有など、つきあいの継続に努めている。事業所の運営に協力的な近隣住民や、退居者家族との交流も継続され、支えられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも介護相談、入居説明の受付を行っている。運営推進会議や地域ケア会議にて職員の研修内容や行事、活動内容を報告し、アドバイスをもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を隔月に行い、行政、ご家族代表、自治会、民生委員にも現状報告を行っている。災害時の対応を地域住民として意見交換し、アドバイスを伺い、施設のケア向上に努めている。	新型コロナウイルス感染症対策として、運営推進会議は、文書による報告で情報共有を行っている。また、FAXや電話、メールを活用しながら、質疑応答及び意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政により空室状況、入居紹介等、日常的に情報交換し、良好な関係を維持している。また、行政主催のケア会議や研修に積極的に参加し、より良いサービスが提供できるよう努めている。	行政からコロナ禍における現状の問い合わせがあり、それらに返答しながら、新たな情報を得ている。毎月、町からマスク等の支給があり、受け取りの際に事業所の空室状況や利用者の状況について報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常のケアから職員の気づきに基づいて身体拘束をしないケアを目指す取り組みを行っている。転倒、骨折のリスクがある場合、その原因を職員同士で話し合い、家族に説明、同意を得たうえで利用者様の安全第一を優先に対応し、短期間で解除できるようにしている。	身体拘束委員会を3カ月に1回開催、研修会を1年に2回行い、身体拘束をしないケアの実践に努め、現在、拘束が必要な利用者はいない。点滴中や短時間の安静が必要な場合は、職員が傍らに寄り添い、手を握るなど、身体拘束をしないで安静状態を確保できるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や研修で法令を読み上げ、勉強会を行っている。事例検討会やアンケートをもとに、虐待にならないよう職員のストレスの原因を排除、または軽減できるよう環境作りにも努めている。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度や生活保護を利用している利用者様もいるので、研修等を行い、制度の内容を把握している。ご家族からも話を伺い、これからもっと受容が増加すると感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望や問い合わせ時より、ご家族が不安に感じていることや要望を伺っている。質問の都度、懇切丁寧に説明し、利用者様の支えになれるよう行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で面会が制限される中、ご家族の要望を取入れ庭などで面会をする等工夫している。また、既存の近況報告書を利用者様個々の写真付きでよりわかりやすく日常の様子を伝えている。面会や電話時に要望等を伺い、信頼関係に繋げている。	毎月、利用者や事業所の状況を伝える便りを家族に送付している。面会や電話などで家族の意見を聞き、支援に反映するよう努めている。コロナ禍において制限はあるが、感染予防対策を講じた上で、利用者と家族の面会を実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員から日頃の気づきや提案相談に耳を傾け、管理者会議に議題として報告を行い、意見交換をしている。また、決定事項や改善点を全体会議で伝え、職員の向上につなげている。	管理者と職員の信頼関係も良好で、管理者は職員から相談を受けたり、気づきや要望を聞いている。コロナ感染予防対策として、職員の私生活の情報を得ることも増えている。職員は、自主的に行動自粛やPCR検査を行うなど、感染予防意識も高く、管理者と共に感染予防に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの心を大切に、経験や性格、考え方等を取り込み、日々やりがいのある仕事ができるよう役割分担をしている。子育て中や定年した職員が無理のないよう勤務時間や希望休にも配慮し、より良い職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各施設研修や4施設合同研修などに、職員各自が向上心を持ってスキルアップできるよう積極的に参加してもらい、もっと学びたい事などアンケートをとり、深く学べる研修の場を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が外部の研修や会議、交流会等に積極的に参加し、同業者と意見交換を行い、質の向上につながるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネや相談員の方より情報提供書を頂いたり、ご家族よりお話を伺い、要望に沿えるよう事前準備を行い、安心して入居して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望の受付時より、ご家族として一番困っている事や心配事、入居後の希望を伺い、どのようなケアが必要か検討し、ご家族が安心して入居できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて事前面談を行い、専門職からのアドバイスを参考にして、ご本人、ご家族が安心して穏やかに生活するために必要な支援、環境を検討、見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の中で挨拶から冗談やまじめな人生相談等コミュニケーションを図っている。同じ時間を過ごす中で、喜怒哀楽を共に感じる関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居希望時より、ご本人が安心して安全に穏やかに過ごせるプランを一緒に考えて頂けるよう話を勧めている。また、電話やお便りで近況報告や普段の様子を伝え、意見や要望を伺うように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人やご親戚、近所の方が気軽に施設に訪れている。訪問者と利用者様が心地良く面談できるよう、お茶菓子等でおもてなしをしている。現在はコロナウイルスの影響で、おもてなしの代わりにお茶とお菓子を持ち帰って頂いている。	新型コロナ感染予防の為、居室や共用スペースでの面会方法や時間等を制限している。庭やテラスなどを有効活用し、場所、時間、人数調整等を行い、3密を避けながらの面会機会を設けたり、利用者や馴染みの人との電話での会話など、交流継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの性格、病気の症状に合わせ、部屋の配置を考えている。気の合う利用者同士が関わり、支え、励ましながら生活できるよう促し努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も困ったことがあれば相談頂けるよう声かけしたり、近況状態を伺っている。また必要に応じ、相談支援も行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の状態や会話の中で、できること、好きなことを見つけ、掃除、洗濯物たたみ、草花の水やり等無理なく続けられる役割りを持つことで生きがいに繋げている。	本来は、ゆっくりと時間をかけて利用者へと接すべきであるが、感染予防対策として、利用者との密な接触を短縮出来るよう工夫している。利用者の意向、体調、天候などを考慮しながら、利用者一人ひとりが家事などの役割を持って過ごせるようにしたり、庭やテラスでの散歩、ティータイムなど、3密を避けながらリフレッシュできるよう支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の過去の職業、趣味、特技等これまで生きてきた歴史を、ご本人、ご家族、ケアマネの方に伺い、継続できることを見つけ、その人らしさを尊重できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で分析した利用者様の状態を把握し、アセスメントを行う。安心して穏やかな生活を過ごすことができるか、心身ともに安定した生活が送れるよう配慮し、常に見直している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の介護記録簿にケアプランを記載し、利用者様一人ひとりに合ったケアを行えるよう努めている。専門職や医師から指示があった場合は、介護計画に加えて、身体面、精神面にも配慮している。	コロナ禍の今、家族等の参加が難しい為、意向書で利用者と家族の意向を確認し、反映に繋げている。ケアプランやサービスの実施は適切に行われているが、利用者の状況、ケア内容等の記述から、報告を受けた家族が状況を理解することが難しいと思われる。	介護計画及び実施記録簿等の記録を丁寧に行っている。更に、その人らしさを反映した具体的な内容を表現し、記述することで、実際のケアがイメージでき、職員間、家族の理解と共に、見直しに繋がることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護記録簿にその日の様子や言動を記入している。また、ケアプランに対するモニタリングも行い、心身状態も確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族のニーズに応えられるよう、意識してケアに取り組んでいる。個別のリハビリや散歩等も行い、利用者様の一日が楽しみのあるものになるよう努めている。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を生活に取り入れている。地域の行事や祭りに参加したり、近所の桜の花見に散歩に出かけ、施設周辺の自然の変化や四季を感じられるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は自由に選択できることを入居時に説明している。協力医の往診は月2回あり、夜間でも連絡が取れ、ご本人、ご家族の安心に繋がっている。受診はご家族同行が基本となっている。医療情報はその都度ご家族、かかりつけ医、施設間で連携し共有している。	2週間に1回、協力医の往診がある。希望によっては、家族の協力を得て、かかりつけ医の受診もできるよう支援している。また、家族が利用者の状況を理解し安心できるよう、直接、電話で医師からの説明を受けたり、協力医の往診時に同席してもらうなど工夫している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調管理表に毎日のバイタルを記録に残し、職員間で情報を共有している。変化の都度、看護師に相談、主治医と連携し、迅速な対応ができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時必ず介護サマリーを作成して情報提供している。その都度質問に応じ、相談員から状態を伺い、退院後受け入れ準備を行っている。退院時、カンファレンスを行ったり、病院で開催される研修にも参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期、看取りの指針について説明している。医療行為が必要となった時は、主治医、ご家族と共に話し合い、ご本人の意向を伺いながら対応している。ご家族が利用者様と最期の時を静かに穏やかに過ごせるよう支援している。	事業所での看取りを希望する本人・家族が増えている。希望者には、新型コロナ感染予防対策を徹底しながら体制を整え、利用者や家族が共に穏やかに過ごせるよう支援に努めている。現在、看取りケアは、体制・人材確保など課題も多く、受け入れに限界が生じてきている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時迅速な対応ができるよう研修にて実践し、能力の向上に努めている。利用者様一人ひとりのリスクを把握し、職員で共有し、いつでも対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設は地域の福祉避難所となっている。災害時には3日分の食料と水が提供できるようストックしている。行政、職員間等の連絡網も作成し、対応できる体制に努めている。	避難訓練の実施により、職員の防災意識を高め、有事の際の実践力強化に取り組んでいる。災害時における福祉避難所でもあるが、職員だけで利用者と避難者の支援を行うことは難しく、災害時の介護支援者をどう確保するかなど、地域や行政と議論を重ね体制作りに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様が誇りを持って生きてこられたことを尊重し、人生の先輩として職員全員で受け止め、ケアに取り組んでいる。日常生活ではプライバシー(トイレ、入浴、着替え等)に気を付け、言葉かけを丁寧に行っている。	管理者と職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、その人らしい生活を送れることを大切に考え、情報の共有と支援の工夫に努めている。介護職員、事務職員など全ての職員が、丁寧な言葉遣いでコミュニケーションを図り、プライバシーを損ねない対応で利用者に関わっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段より分かりやすい言葉(短い)や文字を使って、利用者様が答えやすくしたり、希望を伺ったり、自己決定しやすい問い掛け方法を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの生きてこられた思いや習慣を大切に、その人らしい一日、そしてその人のペースに合わせて希望を伺い、安心して過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時ご本人のお好きな服を選んで頂き(選びやすくする工夫)、一日のスタートを支援している。衣類等は常に清潔な物を用意している。剃りや髪の手入れ等も支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立、味付け等は利用者様の好みをお聞きしている。季節を感じられる物を取り入れ、野菜の皮むき、筋取りなどやって頂けることはお願いして食べる楽しみにつなげている。庭の果物や野菜を献立に取入れ喜んでいただいている。	野菜を育てた経験のある利用者も多く、旬の食材についての話題をきっかけに会話が弾んでいる。こうした個々の利用者の経験を活かすことで、記憶や知識を蘇らせ、調理や後片付けに参加したり、楽しい時間を過ごせるよう情報共有と支援の工夫に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりに合った形態、カロリー、水分量を計算しながら提供している。ご自分で食べられる方、介助が必要な方、各個人に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯のある方、入れ歯の方、それぞれご本人の力に応じ口腔ケアを実施している。歯のない方ややうがい難しい方は、粘膜用ブラシを使用し、口の中を清潔にしている。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を作成し、個別の排泄周期をつかんで介助を行うようにしている。なるべく自力で排泄できるよう支援している。失敗されても怒ったりせず、言葉に注意して優しく接している。	排泄記録を活用し、個々の排泄リズムに応じた声掛けや誘導を行い、自立を維持できるよう支援に努めている。職員が排泄の介助をする際には、プライバシーへの配慮に努め、カーテンやドアを閉める等、徹底している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録を付け、個々の身体の特徴をつかんで運動を行って頂いたり、繊維質の多い食品を摂る事により排便を促すようにしている。それでも排便がスムーズにいかない場合は、薬を処方して頂き対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の入浴の意思を確認し、プライバシーに配慮し、安全確認しながら入浴を実施するようにしている。入浴日に入らない方は別の日に行い、季節により日数を増やすなどして清潔に過ごせるよう配慮している。	入浴は週に2回を基本にしているが、季節や状況に応じてシャワー浴や足浴を組み合わせ、週3~4回行うなど、利用者が清潔に気持ちよく過ごせるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の就寝時間やトイレのサイクルを前もってつかみ、心身穏やかに休んで頂けるよう準備している。見回り、安眠しているか確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的や用法等について理解し、服薬できたか職員がチェックして記録するようにしている。往診の際、病状の変化を主治医に報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を考慮し、趣味の塗り絵や音楽を聴く等、個々に合わせて楽しい時間を過ごせるよう工夫している。また、料理の下ごしらえや洗濯たたみを役割として手伝っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で車での外出支援を控えているが、近所を散歩したり桜や紅葉を見に行ったり、庭でお茶や花を育てたりとできる範囲で外に出て楽しんでもらっている。	コロナ禍の今、外部の人との接触を防ぐ為に外出を制限しており、車での外出の機会は無くなっている。庭の散策、テラスやベランダを活用したティータイム、事業所周辺の散歩等、出来る範囲で戸外での活動を支援している。	

岐阜県 グループホームぬくもりの家揖斐

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で少額のお金を持っている方もいるが、現在は認知症のためご家族管理のもと使用されている方が多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望によりご家族への電話を取り次いだり、手紙のやり取りを支援している。年賀状を出したりと関係が継続できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下は心穏やかな気持ちのになれるように、間接照明を使用したり季節の花々や静かな音楽を流すなど工夫している。和ダンスやアンティーク家具を配置して楽しめる空間作りをしている。	共用の場所は照明を工夫し、雰囲気と環境づくりに努めている。昔ながらのアンティーク家具が置かれ、季節の花を飾り、装飾品や音楽にも配慮している。共用部分の大きな窓と、広く長い廊下を活かした換気で感染症対策に努め、利用者が居心地よく過ごせる空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ではお好きな場所で過ごして頂けるようテーブルやソファ、座りやすい椅子を用意し、個々が落ち着いて過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人とご家族の協力を取り入れ、思い出の写真やハガキを飾ったり、使い慣れた家具、見慣れた飾りや置物を備え付け、居心地良く住みやすいよう配慮している。	家族からの情報を活かし、好きな歌を聴くためのラジカセなど、利用者の馴染みの品を持ち込むことが出来る。家族の写真、葉書等の飾りつけなどにより、利用者が落ち着いて生活できる居室作りに努めている。各居室のベランダでも、利用者が寛げるよう環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室は分かりやすいように表示したり、廊下の動線に目印になるものをつけて迷わず移動できるように工夫している。館内はバリアフリーで手すりがあり安全に生活できるようにしている。		